

令和6年度  
北海道教育大学  
附属函館幼稚園だより  
NO. 4【号】



## ちびっこまつり

北海道教育大学附属函館幼稚園長 五十嵐 靖夫

6月14日(金)に開催した「ちびっこまつり」が成功裏に終わりました。私にとっては初めて経験する「ちびっこまつり」でしたが、とても感動しました。園児が主体となってお客さんのおもてなしをすること、マミーのお店など保護者の方のたくさんのご協力、附属小学校や附属特別支援学校との交流、わたあめとポップコーン作りをしてくださった大学の細谷教授や学生さんとの連携など、素晴らしい取り組みでした。

中でも一番感動したのは、おまつりに附属小学校1年生と附属特別支援学校の小学部児童を招待したことです。園児たちは、小学生のおにいさん、おねえさんたちに一生懸命ゲームのやり方を説明し、景品をプレゼントしていました。はな組は「ころころどうなつやさん」で手作りのドーナツ、つき組は「つりつりゲームやさん」で手作りのメモ帳とクリップ、ゆき組は、めいろやさんで手作りのプラ板のキーホルダーをプレゼントしました。

附属四校園の中では一番年下の園児たちは、日頃お世話をされることが多いのですが、今回ばかりは自分たちがお世話をする、おもてなしをする場面です。他の人のために何かをする、自分のしたことによって他の人が喜んでくれるという体験はとても重要です。

文部科学省中央教育審議会の報告「2030年の社会と子供たちの未来～学校の意義」では、様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感をもつことにより、人間一人一人の活動が身近な地域や社会生活に影響を与えるという認識につながると述べられています。

それぞれの園児が今後も自分の存在を認められ、自分も人の役にたつという経験を積み重ねることによって、社会をよりよくできるという気持ちを持ち、さらに成長することを願っています。